

## 『鉄と肝臓について』

肝臓川柳



『鉄が増え ウイルス抑制 ヘ～んしん(変身)』

ヘ～んしん・・・ヘ～ぷしん・・・ヘプシジン・・・(スランブだ)

前回予告の如く、鉄と肝臓について(さらにC型肝炎との関連)です

鉄は、人間が生きていくのに必須の微量元素の一つですが、細胞毒にもなる“もろ刃の剣”です。そのために人体の鉄の量は厳密にコントロールされていますが、最も重要な働きを肝臓がしています。

鉄輸送にかかわる2つの重要な蛋白『フェロポルチン』と『ヘプシジン』

- 『フェロポルチン』 >>鉄吸収を促進し
- 『ヘプシジン』 >>>鉄吸収を阻害します

このヘプシジンは肝臓から作られます

正 常 ヘプシジン正常 ……鉄吸収阻害↓

肝障害 ヘプシジン産生↓……鉄吸収阻害↓=吸収促進↑=体内蓄積↑

↑

実は、C型肝炎ウイルスは、このヘプシジンの産生を抑制します

そのためC型肝炎患者では鉄が蓄積し、肝炎進行や肝癌発生を助長すると言われており、少しでもそれらを予防するため、瀉血や鉄制限食を行うのです

★★しかし、ここからがややこしいのですが★★

実験系では、鉄はC型肝炎ウイルスを抑制します。逆に、ヘプシジンは C型肝炎ウイルスを増やします。

>>これらの現象すべてつなげるには、考え方を変えなければなりません。C型肝炎に感染すると生体側が反応して『ヘプシジン』の産生を減らすと考えるのです。すると、鉄が増えヘプシジンが減りますが、これらの状態はC型肝炎ウイルスを抑制する事になります  
※鉄がむしろ必要な時期は、HCV 増殖を抑える(抗ウイルス療法を行っている)時に限定します

『いやあ～生体の恒常性(ホメオスターシス)というのは実に巧妙なものですねぇ』



これだけ覚えておけば損はない!

今 回 の ポ イ ン ト

C型肝炎に感染すると生体側が反応して『ヘプシジン』の産生を減らす  
すると、鉄が増え、ヘプシジンが減る  
すなわち、これらの状態はC型肝炎ウイルスを抑制する事になる

( 文 : 福井県肝疾患診療連携拠点病院協議会 野ッ俣 和夫)